

| | | | | |
|--|---|---|---|-------------------------------------|
| ■After 建築名称 下段: 英語名 | 笹島高架下オフィス | |  | |
| 建築用途 | 大分類 事務所 | 小分類 オフィス | | |
| 改修設計者 | MARU。architecture 構造: 坂田涼太郎構造設計事務所 | | | URL |
| 所在地 | 愛知県名古屋市中村区下広井町1-14 | | | Google Map |
| 改修年 | 2022年 | | | After 新幹線と高架下のオフィス |
| 建築規模 | 木造、地上2階 | | | 撮影者提供者 提供: MARU。architecture |
| 掲載書誌 | 新建築2022年5月号、日事連会報 2024年8月号 | | 概要 after 土木的スケールのRCの高架下に建築的スケールの木造のオフィスを挿入したプロジェクト。構造的にそれぞれ独立し併存している。 | |
| 賞・選定 | 2024 日本建築学会作品選集、2024 日本建築家協会優秀建築選、2022 グッドデザイン賞 | | | |
| 資料・その他 | 断面図 URL | | | |
| ■Before 建築名称 | 新幹線高架 | | | 概要 before 名古屋駅近傍の新幹線高架 |
| 建築用途 | 大分類 交通・流通施設 | 小分類 高架 | | |
| ■写真 Before オフィスが挿入される前の新幹線の高架 | After 車両点検車両の通行スペースを確保するため、2階の床を2.6mはね出したキャンティレバーとしてい | After 高架の中間梁を避けながらスキップフロアの床で構成されているオフィス内観 | | |
|  |  |  | | |
| 撮影者提供者 Googleストリートビューより 2020年 | 撮影者提供者 撮影: 関拓弥 提供: MARU architecture | 撮影者提供者 撮影: 関拓弥 提供: MARU architecture | | |
| ■リノベーション内容 | キーワード 挿入、併存 | 内容 <MARU。architecture Websiteより> 高架橋下は、都市の中で広大な面積を占めながらも、柱・梁による空間的制約や構造的制約、振動・騒音などの諸課題があり、これら乗り越えて、最大限に場所を活用することが求められました。改めて高架橋を見つめると、土木と建築の違いが強く意識される。スケール、素材、精度が圧倒的にかげ離れていて、都市生活を支える巨大インフラでありながら、人間の身体には無縁のように感じられます。そこで、私達はこの高架橋をいかに身体に近づけるか、そのための建築をつくることを目指しました。具体的には、高架橋という土木的スケールのインフラに対して、木の構造体によって建築的なスケールを重ね、それぞれが自立しながら交錯する関係性によって、固有の場所を生み出すことを考えました。建築が高架橋を避けてささやかに建つのではなく、高架橋と絡まって積極的に関係を持ちながら建つあり方です。新設の木構造体は、高架橋に構造的に依存することなく、それぞれが自律的にオーバーラップする構成としました。高架と異なるリズムで自由度の高い構造を実現するために、木の積層材と炭素繊維を組み合わせた新建材「LIVELY WOOD」を採用することにより、梁せいを最小化し、ロングスパンで跳ね出しの大きな構造を可能としている。これによって、異なるレベルの分節された床が、高架の躯体フレームの中に、様々に展開する構成を実現しています。 | | |
| ■備考 | | | | |
| ■作成者氏名/所属 | 桐原武志 / Free JIA再生部会 | 作成協力者 | MARU。architecture | |